



Newsletter

vol. 48

令和5年度が始まるにあたって思うこと ●
パオなひと講座「子どもの痛みと向き合う」 ●



パオの
現いま

令和5年度が始まるにあたって思うこと パオ事務局長 高橋直紹

パオができたのは2006年7月（NPO法人認証は同年12月）です。あれから16年間、なんとか続けることができました。みなさまがパオを応援し続けてくださった賜物です。本当にありがとうございます。

この間、いろいろなことがありました。パオでは、子どもシェルター「丘のいえ」とステップハウス「ぴあ・かもみーる」の運営を大きな柱としていますが、スタッフの不足から「丘のいえ」が一時休止・再開を繰り返しました（現在も一時休止中）。また、新型コロナウイルスの影響で、子どもたちも行動が制限されストレスが溜まっていく中で、「ぴあ・かもみーる」の決まりごとなどが崩れてしまったこともあります。子どもたちの中でのスマートフォンなどの存在の大きさに、大人たちがついていけずに右往左往したこともありました。

そのような中で、支援する大人たちの中でも混乱が生じ、運営側と現場、パートナー弁護士とスタッフとの間に不信が出てきてしまったりすることも正直ありました。

「ぴあ・かもみーる」は、子どもたちにとって、門限やスマートフォンの使い方などで他の施設よりも制限が掛かっている面は否めません。全部自由にしてしまえばどれだけ楽だろうかと思うこともあります。それでも、パートナー弁護士が関わることによ

り、今まで権利を侵害されてきた子どもに権利を保障することで、自己評価と自己肯定感を少しでも上げてもらいたいと思うとともに、パオの施設にいる間スタッフや他の子どもたちとのコミュニケーションや一緒にいる時間をできるだけ大切にしたいというパオ設立の頃からの想いを捨ててはできません。

子どもを支援する施設は、子どもの権利を醸成するものである限りは、いろいろな種類・形態が存在し、それぞれの子どもの自分に合った施設を選ぶようになるのが理想です。パオの施設が今までの施設とは違う面があるのも、それはそれで存在意義があるんだろうと思っています。

今一度、パオが立ち上がったころの熱い想いを再認識して、「パオなひと」が一体となって、子どもたちを応援する形を作っていきたいと思います。どうぞ、みなさまにおかれましても、今後ともパオの活動に深いご理解と温かいご支援をお願い申し上げます。

